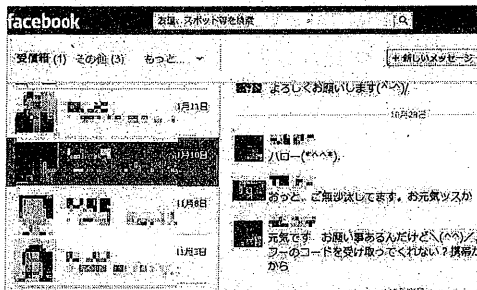


# 巧妙なりすまし 止まらぬ被害

## フェイスブックなどSNS

### パスワード勝手に変更

ネット上で友人たちと気軽に情報をやり取りする交流サイト(SNS)を舞台に利用者になりすます不正行為が相次いでいる。利用者本人と思いついで会話した他のSNS利用者が個人情報を引き出される場合もある。米フェイスブックなど運営企業は防止策を強化しているが、なりすます側は防止策をくぐり抜けようとするに「智慧」を巡らせる。便利な機能が逆に悪用されるケースも出てきた。不審な相手には返信しないなどの自衛を改めて徹底する必要がある。



「ねえ、フェイスブックであなたから変なメッセージが送られてきたんだけど、心当たりない？」  
東京都内に住む片山文子さん(仮名、35)は最近、友人からこんな連絡

「フェイスブック」などSNSの不正利用が後を絶たない



を受けた。驚いた片山さんが自身のフェイスブックを確認すると「ハロー。お願い事あるんだけど、携帯でヤフーのコードを受け取ってくれないか？」というメッセージが友人たちに送られていた。ヤフーのコードとはオークションや通販などを利用する際に必要な登録名などの個人情報を指していたようだ。

片山さんは急ぎ自分のパスワードを変更、友人にこのメッセージには返事しないように連絡した。友人たちがメッセージを片山さんから思い込んでやり取りした場合、個人情報を引き出される恐れがあった。

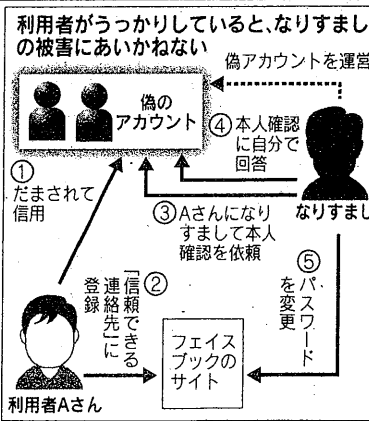
なりすまし側の手口はどんどん巧妙になる。利用者にとって便利な機能が悪用されるケースも増えている。例えばフェイスブックには利用者がパ

パスワードを忘れてしまったときのために、他の利用者の助けを借りて本人確認する仕組みがある。利用者は家族や友人などを、「信頼できる連絡先」としてあらかじめ3人指定して本人たちにも承諾をもらっておく。パスワードを変更する際、本人確認を依頼する3人が「確かに本人である」と承認した

なりすまし被害は増加傾向にある。独立行政法人の情報処理推進機構(IPA)によると6月までは毎月数件だった相談が7月以降は十数件に増えた。IPAは「相談が増えてきているのは被害の法を複雑化する仕組みの氷山の一角」(技術導入が相次ぐ。

### 防衛へ認証より複雑に

利用者はあらかじめ自身の携帯電話のメールアドレスをSNSに登録しておく。パソコンがSNSにログインの際、通常の利用者名とパスワードを入力すると携帯電話にも別のパスワードが送られる。こ



こうした手口はSNS側のセキュリティ対策すくなく通用しなくなるといえる。なりすまし側はあの手この手で利

場合のみ、利用者はパスワードを再登録できなくなりすまし側はこれ目をつけた。言葉巧み自分が運用する3人分架空アカウントを「信頼できる連絡先」に登録せ、利用者から聞き出したメールアドレスを偽って専用画面に移動。本人確認の依頼を3つのアカウントあてに送り、承認してしまう。偽利用者パスワードを勝手に変更して、その後は利用者になりすます。